

様式1（視察用）

会派行政視察報告書

令和5年度会派 明誠クラブ の行政視察研修を、令和5年5月23日(火)から5月25日(木)までの2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和5年6月30日

名取市議会議長 菊地 忍 様

会派名 明誠クラブ

代表 佐藤 正博 

記

1 期 日 令和5年5月23日（火）～ 5月25日（木）

2 参加人員 3名 〈氏名〉 佐藤 正博
大久保主計
千葉 栄幸

3 視 察 先 (1) 熊本県山鹿市
(2) 熊本県菊池市
(3) 熊本県嘉島町

4 行 程 表 別紙のとおり

5 調査事項 別紙のとおり

6 所 感 別紙のとおり



令和5年度 明誠クラブ視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
5/23 (火)	仙台空港(7:35 発) ⇒⇒⇒⇒ (9:45 着)福岡空港(10:17 発)===== 福岡地下鉄空港線 (10:23 着)博多駅(10:42 発) ===== (11:20 着)熊本駅(11:43 発) 九州産交バス ===== (13:07 着)山鹿バスセンター(13:15 発) ===== 山鹿市議会様送迎 (13:30 着) 13:30~15:00 山鹿市議会視察 山鹿市議会様送迎 ===== 八千代座視察 ===== 山鹿市議会様送迎 山鹿バスセンター(15:50 発) ===== (16:32 着)菊池温泉市民広場前 九州産交バス 徒歩 菊池市内宿泊	熊本県山鹿市議会 (担当：一法師様) いっほうし 所在地 〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987-3 電話番号 0968-43-1634 調査項目 1 新シルク蚕業構想について 2 周年無菌養蚕施設について ※議長不在 ※代表あいさつ ※震災支援なし	菊池グランドホテル 所在地 熊本県菊池市隈府 1144-2 電話番号 0968-25-3111
5/24 (水)	ホテル(9:40 発) ===== 菊池市議会様送迎 10:00~11:30 菊池市議会視察 ===== 菊池市議会様送迎 (12:00 着)メロンドーム ===== 菊池プラザ(13:26 発) ===== (14:47 着) 菊池市議会様送迎 熊本電鉄バス 桜町バスターミナル..... 熊本市内宿泊 徒歩	熊本県菊池市議会 (担当：笹本様) ささもと 所在地 〒861-1392 熊本県菊池市隈府888 電話番号 0968-25-2325 調査項目 1 移住・定住の取組について ※代表あいさつ ※震災支援なし	東横 I N 熊本桜町バスターミナル前 所在地 熊本県熊本市紺屋今 町1-24 電話番号 096-322-1045
5/25 (木)	桜町バスターミナル(9:40 発) ===== (10:12 着)イオンモール熊本 熊本バス (10:15 発) ===== 10:30~12:00 嘉島町議会視察 ===== 熊本バス (12:05 着)イオンモール熊本(13:00 発) ===== (13:31 着) 熊本バス 桜町バスターミナル..... 熊本市内..... (16:00 着)熊本駅(16:20 発) 徒歩 徒歩 (17:09 着)博多駅(17:20 発) ===== (17:26 着)福岡空港(19:20 発) ⇒⇒ 福岡地下鉄空港線 ⇒⇒ (21:05 着)仙台空港	熊本県嘉島町議会 (担当：石坂様) いしさが 所在地 〒861-3192 熊本県上益城郡嘉島町上島530 番地 電話番号 096-237-1111 調査項目 1 人口増加率向上の取組について 2 熊本県フットボールセンター COSMOSについて ※代表あいさつ ※代表謝辞 ※震災支援なし	

新シルク蚕業構想について

名取市議会議員 大久保主計

はじめに

熊本県山鹿市において、日本では斜陽産業と言われて久しい養蚕に再注目し、新たな手法で、国内のみならず世界を視野に入れたシルク産業の再興、創生に取り組む企業と、連携し地域経済の活性化に取り組む山鹿市の支援や連携について視察研修した。どうすれば地域の特性を生かした一次産業を発展して六次化等に取り組めるのか。雇用を生み出し、地域の活性化につなげる術を考察したい。

1 山鹿市の概要等

山鹿市 面積299.69km² 人口49,278人

(2023.2) 世帯数 21,933世帯

名取市 面積98.17km² 人口79,582

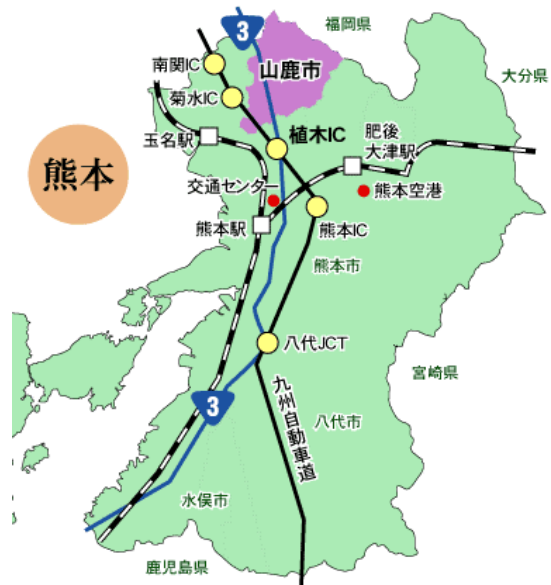
人 (2023.5) 世帯数 33,174世帯

山鹿市は、平成17年1月、山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町が合併して誕生しました。豊かな自然環境のもと、良質な温泉、古代から近代に至る歴史・

文化遺産、伝統工芸・芸能、豊富な農林産物などが本市の自慢です。（以上、山鹿市HPより抜粋）

人輝き飛躍する都市（まち）やまが～人と自然・産業歴史文化が響きあうまちづくり～を掲げて市政運営を展開している。山鹿市議会は、議員数20人で女性議員は2人、平均年齢59.6歳。

今回、私たちは直接株式会社あつまるホールディングスNSP山鹿工場にて視察研修を行うことができた。農業生産法人株式会社あつまる山鹿シルク代表者島田裕太さんと、NSP山鹿工場天空開発ユニット長兼生産管理部飼育ユニット長瀧上博貴さん、



行政から山鹿市農林部農業振興課長補佐兼農業振興係長宮崎浩二さんから説明をいただいた。山鹿市議会担当者は、山中徳子さんである。

2 新シルク蚕業構想について

(1) これまでの沿革について

山鹿市は熊本県の近代蚕糸業の開祖長野濬平（しゅんぺい）氏の出身地であり、非常に養蚕・製糸業が盛んな地域だった。しかし、輸入品の増加、農家の高齢化等で全国的に国産シルクは衰退する。このような状況の中で、平成26（2014）年10月現在の（株）あつまるホールディングの島田俊郎社長は、農業法人（株）あつまる山鹿シルクを創設し、新たな手法で、世界を視野に入れたシルク産業の再興・創生を目指すプロジェクトを始動させた。

これは、2014年1月ごろに熊本経済同友会の例会で、当時の熊本県産業技術センター坂井滋所長の講演「周年無菌養蚕システム」に興味をもったのが始まり。

平成26（2014）年

- ①新養蚕産業構想のための協定締結（事業者・山鹿市・熊本県）
- ②施設等建設予定地の調査、情報提供及び地元説明（事業者・山鹿市）
- ③桑園造成に伴う関係道路整備、有害鳥獣対策、排水対策（事業者・山鹿市）
- ④国及び兼補助金、交付金の有効活用（事業者、山鹿市、熊本県、国）

平成27（2015）年～平成28（2016）年

- ①桑園の整備（事業者）、アクセス道路の整備（山鹿市）
- ②工場建設開始（事業者）、補助金等による支援（国、熊本県）
- ③セミナー開催、HPによる市民等への情報発信、啓発（事業者・山鹿市）
- ④新シルク蚕業構想推進協議会の設立（事業者、山鹿市、熊本県）

平成29（2017）年

- ①桑園の整備（事業者）、アクセス道路の整備（山鹿市）
- ②工場竣工、試験操業開始（事業者）

- ③安定生産に向けた飼料等の研究（事業者）
 - ④サミット開催による関係企業、研究機関、自治体等の連携体制構築（協議会）
 - ⑤学校等での蚕に関連した学習（協議会）
-

（２）山鹿市の取り組みと産学連携について

山鹿市において「やまが新シルク蚕業構想推進協議会」を設置し、国内最大遷移取引実績を持つ伊藤忠グループと連携したブランディング戦略を展開し、市民周知のためのセミナーや、シルク関連事業者との交流及びPRのためのシルクサミットの開催、また情報発信基盤となるWEBサイトの構築、対外的な広報活動を通じて先進性、優位性の確保対策など、様々な事業に取り組んでいる。

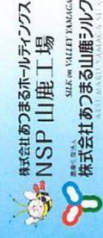
新シルク産業構想 「 SILK on VALLEY YAMAGA 」 プロジェクトは、盆地（VALLEY）に位置する山鹿から、日本の養蚕・シルク（SILK）産業を再興し、世界のシルク産業拠点として羽ばたくという願い、決意が込められている。このプロジェクトを推進して４つの効果を期待している。

- ①桑園、工場の拡大による遊休地、耕作放棄地の解消
- ②工場の稼働、関連産業が集積することで生まれる地元雇用の創出や若者などの定住促進
- ③地場企業などと連携した６次産業化の推進や地域産業の活性化
- ④世界に誇れる新たな付加価値と高機能を備えた「やまがシルク」によるジャパンブランド力の向上と交流人口の増加

養蚕工場での直接的な雇用増などの効果だけでなく、山鹿市における「まち・ひと・しごと」づくりの全てに寄与する地方創生モデルとなる取り組みに育てたいとのこと。

*プロジェクトの概要は、次項の資料を参照のこと。

プロジェクトメンバー



— 新シルク産業構想 —
SILK on VALLEY
YAMAGA, KUMAMOTO

プロジェクト公式サイト
<https://silk-on-valley.atsumaru.jp/>



熊本県・山鹿市



県産業 技術センター

★技術指導・支援

地域産業 地場企業

★用途開発・業務提携
★6次産業化

新シルク産業の創出

・地域経済活性化
・地元雇用創出
・交流人口増加
・山鹿ブランド確立
・海外販売戦略

伊藤忠商事(株) グループ

★ブランディング戦略
★マーケティング

<技術連携>

農研機構

★先端技術導入支援
★養蚕技術指導

九州大学

熊本大学

★共同研究講座

（３）新シルク蚕業構想のプロジェクト概要

このプロジェクトは、大きく（株）あつまる山鹿シルクの飼料の生産と供給と、（株）あつまるホールディングスNSP山鹿工場のシルク生産と販売との２つの事業により構成されている。

まず、繭の生産に欠かせない桑畑は、山鹿市の協力で標高600mの山上に25haの耕作放棄地を桑園として造成し約8万本の桑を栽培している。標高が高く「天空桑園」と称し、周辺からの農薬の影響がなく、飼料となる桑の葉は完全無農薬で栽培され、桑の葉はシート状の人工飼料に加工され年間利用が可能となった。

この人工飼料はNSP山鹿工場で製造保管されている。天空桑園では機械化により桑葉を収穫し、搬入された桑葉を洗浄後脱水し、桑葉と枝を分離する風力選別工程を経て真空乾燥する。乾燥工程によって桑葉の含水率を極力下げ、葉を最適に保管するために粉碎後真空シール保管を行う。粉体状の桑葉



と副原料を混合、練り合わせを繰り返し、飼料を作製する。カイコの成長に伴い餌の厚みを変えるシート形成工程を経て資料を専用台車に段積みし、専用台車ごと蒸煮し、冷却後保管する。

飼育設備では、この人工飼料を3回に分けてカイコに与え、1齢から3齢を稚蚕室、4齢を中蚕室、5齢を壮蚕室で養蚕している。

この飼料から生産された生糸も完全無農薬であるため、これらの生糸を原料とした製品は、食品や医療にも使用されているとのこと。

また、従来の養蚕業は年に3回程度しか繭の生産ができず、蚕は伝染病に弱く生産効率が低いという課題があったが、「周年無菌養蚕システム」が国立京都工芸繊維大学で開発され、無菌、常温環境で極力病気の発生を抑え、年間24回の繭生産が可能となり、23億円を投資して、平成29（2017）年に、廃校跡地に養蚕工場が誕生した。この工場では、人工飼料を調整し、カイコの飼育から繭の生産までを一貫して行うことができる世界的に見ても最新鋭、最大規模の施設。その内部は、クラス10000のクリーンレベルを持ち、温度、湿度管理を徹底し、高品質で安定した繭の生産を可能としている。

新シルク産業によりカイコが生み出す高機能シルクは、生糸としてだけではなく、化粧品や医療関係など様々な分野への応用が可能で、大学や専門機関と研究開発を進め、新たな付加価値と高機能をそたえた「山鹿シルク」によるジャパンブランド力の向上を目指している。



3 考察

斜陽産業となった養蚕に新たな可能性を見出し、人工飼料と無菌環境による無菌周年養蚕システムによる養蚕再興プロジェクトは、国や熊本県と連携して、チャレンジした事業者と山鹿市の取組は、地域起こしの手本である。新分野へのチャレンジにおいてファーストペンギンであり、新しい養蚕システムは、世界をリードするオンリーワンと賞賛できる。行政として事業者と上手に連携、工夫してきた過程や、国や県との調整や支援の内容を、直接担当者から聞いたこと、動き始めた現場の声を聞いたことは、過疎、高齢化、荒廃する山間地の再生を考える上で大変参考となる先駆的な事例であり、有意義な視察となった。

名取市でも耕作放棄地については課題であり、政策的な対応は遅れていると捉えている。地域で暮らす人に還元できる活用を考えたいが、適当なのが見当たらない

い。できれば、その地域の特性を生かし、生業として成立し新たな就労につながれ
ばと欲を出すのだが、現実的な取組は何もない。

山鹿市の例から考察すると、やはりそこには、ファーストペンギンになるキーマ
ンが必要なかもしれない。そして、それを後押しする行政の支援がタイミングよ
く合致しないと上手くいかない。地域課題を考えているキーマンはどこにでもいる
と思う。地域を思う人が集い、知恵を出し合えるような場があれば、可能性はある
かもしれない。その場を作るのは、やはり行政の仕掛けが必要かもしれない。その
地域を少しでも良くしたいと思う人、気持ちのある人を見つけ出し、支援する、知
恵を出し話ができる場を作ること、地域の可能性を掘り起こす仕組みづくりを行政
は担っていると考えさせられた視察であった。そして、地域だけではなく、地域外
の様々な人と結びつきや連携を構築すること。加えて、国や県と調整して、補助金
や支援メニューを探し出して、または提案して、上手に事業を展開する術は、自治
体職員の腕の見せ所である。国の下請け的な事業だけでなく、課題解決に向けて、
自ら解決策を模索し、様々な社会資源と連携し、国や県の支援を如何に得ることが
できるかは、自治体職員の技量に求められているかもしれない。以上が、山鹿市の
「新シルク蚕業構想プロジェクトの視察感想である。

菊池市での移住・定住の取り組みについて

名取市議会議員
佐藤正博

要約 菊池市は、人口が平成 28 年 49,758 人から令和 4 年 46,820 人に減少している。人口減少は今後も続くことから、移住定住促進を進めなければならない。これまで以上に市民と行政が協働・連携して、地域の特性を生かした子育て教育、生活環境の整備など、特色ある取組の実施により、地域の魅力を高め、地域活性化と定住を促進する。

また、「第 2 期菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略{癒しの里きくち}」に基づく人口減少抑制に向け、生産年齢人口や年少人口の維持、・確保に向けた取組を充実・強化していく。

魅力的な人、モノ、暮らしを市内外に広く P R し、若者や子育て世代を中心とした U J I ターン者の受け入れや転出者の抑制を行うことで人口規模の維持を図り、将来にわたって住み続けられるまちづくりを目指す。

1. 事業内容

1) 空き家バンク

市内の空き家や空き地の情報を市に登録し(市と協定を結んでいる公益社団法人熊本県宅地建物取引業協会と公益社団法人全日本不動産協会熊本県本部が選定した市内の不動産業者)、移住・定住希望者へ情報提供をする。

・空き家バンクを活用した移住者数

平成 27 年度	3 世帯 10 人
平成 28 年度	12 世帯 30 人
平成 29 年度	11 世帯 26 人
平成 30 年度	19 世帯 45 人
令和元年度	14 世帯 32 人
令和 2 年度	6 世帯 13 人
令和 3 年度	12 世帯 30 人

令和4年度	15世帯 32人
合計	92世帯 218人
成約数	76件

2) 移住ツアーの実施とイベント出展

a. 移住ツアー

- ・オンライン移住イベント

Live!SMOUTによる動画撮影、配信を実施

- ・リアル移住イベント

市内の業者と協力しツアーを実施

b. 県が開催するイベントへの出展

- ・熊本県が実施する東京や福岡でのリアル移住イベントやオンライン移住イベントへ出展。(年に3～4回)

c. その他

- ・九州移住ドラフト会議への出展

3) HP等によるPR

a. 市HPで情報発信

- ・空き家バンクや市の制度等をまとめて、移住者向けに掲載
- ・移住者の声なども掲載しており、より具体的に移住を考えるきっかけになっている。

b. 移住者スカウトサービスSMOUTの活用

- ・株式会社カヤックの提供する、自治体などが、地域に興味がある人を募集し、直接スカウトすることができる「スカウト型」マッチングサービス。
- ・イベント情報や地域の情報などをプロジェクトとして掲載し、プロジェクトにいいね!が付くと、その方とメッセージのやり取りをすることができる。

c. 住みたい田舎ランキング令和5年2月号

「若者・単身世代が住みたいまち」9位

「子育て世代が住みたいまち」11位

「シニア世代が住みたいまち」13位

4) お試し住宅の運用

市外から菊池市への移住を検討されている方に、実際に生活を体感していただくための住宅を設置。

対象者:市外在住の空き家バンク利用登録者で、移住に対して具体的に検討している方

利用期間:5 日以上 30 日以内

使用料;日額 1,120 円

5) 各種補助金

a. 移住定住推進事業奨励金

空き家バンクを利用して空き家を購入、または空き地を購入し住居を新築した人へ 20 万円(現金 15 万円+商品券 5 万円)を交付。

b. 定住促進空き家改修補助金

空き家バンクを利用して空き家を購入し、家を改修する 40 才以下の人に対して、改修費の 3 分の 2、上限 30 万円を補助する。

c. 移住支援金

東京圏から菊池市に移住して、就業又は起業等をした人。

2 人以上の世帯 100 万円 単身の移住 60 万円

18 才未満 1 名につき 100 万円を加算

d. 子育て世帯移住支援事業補助金

未就学児を帯同して転入した子育て世代の保護者が、住居用の住宅を新築、購入等した場合に補助金を交付

未就学児が 1 名の世帯 30 万円 2 名以上の世帯 40 万円

旭志地域(過疎地域、大幅に人口減少)に転入した場合 30 万円を加算

2. 成果・課題

菊池市では、空き家バンク制度を平成 27 年度より開始し、令和 4 年度まで合計 92 世帯 218 人の移住実績を上げているが空き家の登録物件が少ないのが課題となっている。今後地域おこし協力隊を活用し空き家調査や説明会の実施に力を入れていく必要がある。

また、お試し住宅の運用を平成 29 年度より開始し令和 4 年度までの利用者は、26 組 68 名 347 日の実績となっている。

3. 考察

菊池市での研修視察を終えて、いろいろな移住定住施策を行っているが、なかなか人口増には結び付いていないと感じた。その中でお試し住宅の運用は、面白い試みと感じた。

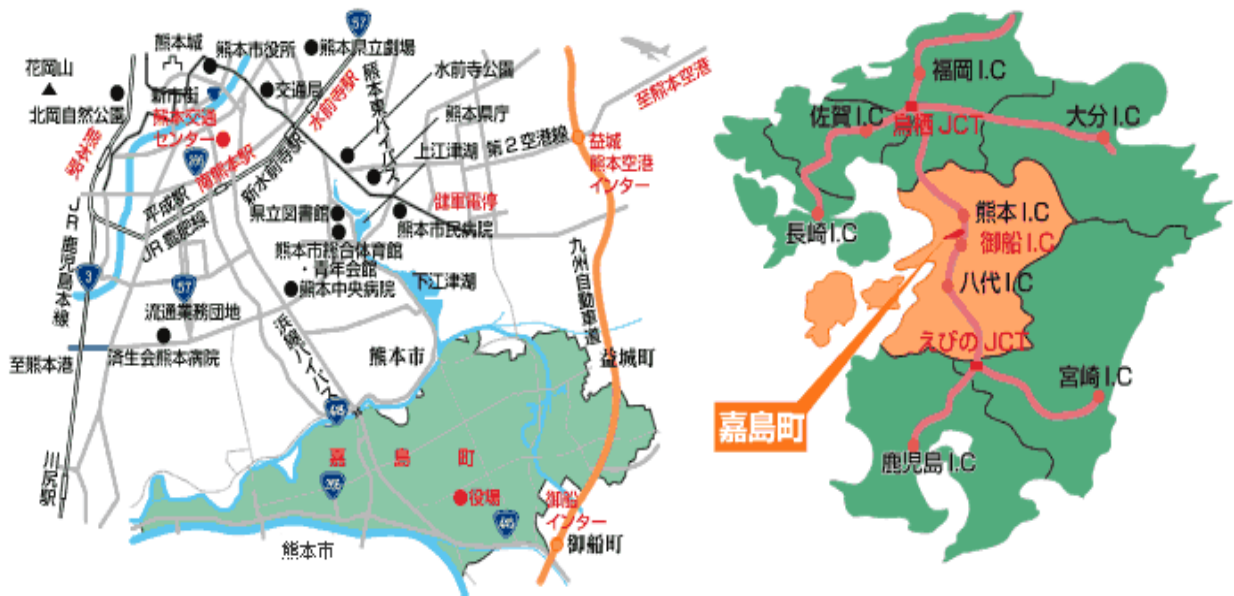
菊池市では、若い人の定住が課題と(高校を卒業すると、市外県外に就職)なっていた。菊池市は立地条件が整っているため(J R熊本駅から車で 50 分、熊本空港より車で 25 分)今回台湾の半導体大手メーカー「T SMC」の進出が、決まった。(令和 5～6 年完成)

今回の研修で得た貴重な知識を今後の市政運営に活かして行きたい。



熊本県フットボールセンター(COSMOS)について

名取市議会議員 千葉 栄幸



【概要】

熊本県嘉島町は、熊本県の中心都市熊本市の南部に位置しており、東西約 9.8 km、南北約 3.9 km、面積 16.65 km²で、面積は県内で一番小さな町となっている。

南は緑川、御船川を隔てて熊本市城南町、御船町に接し、東は九州自動車道を隔てて益城町にそれぞれ接している。

熊本平野に属し平坦な水田地帯で、東地区の一部に標高 20～30mの丘陵地帯がある。矢形川・緑川・加勢川の各河川に囲まれ、清冽な清水をたたえる浮島をはじめとして、いたるところに湧水が点在する、一大湧水群を形成してる。

明治 22 年自治制実施に伴い六嘉村、大川村、上島村となった。明治 38 年 10 月には、大川村と上島村が合併して大島村となり、昭和 30 年町村合併促進法により六嘉村と大島村が合併して嘉島村となった。昭和 44 年 2 月 1 日町制を施行し「嘉島町」として今日に至っている。

「人口」10,101 人、「世帯数」4,081 世帯、「職員数」92 人 (R5.4.1 現在)

【熊本県フットボールセンター（COSMOS）について】

1. 施設の概要

COSMOS の敷地面積は約 5.4ha。

2 面のフィールドは人工芝で、LED のナイター照明を備えている。その北側に、受付やカフェがある「House-N」、トイレと倉庫の「House-W」、「こすもす保育園」の 3 棟が L 字型に配置されている。

L 字に囲まれた北西部分が芝生広場で、合計 400 台収容の駐車場と駐輪場がある。



① 「House-N」



②「House-W」、「こすもす保育園」



③フィールド



2. 施設の運営

現在、嘉島町の運動公園という位置づけで、熊本県サッカー協会（KFA）が整備し、その子会社・熊本フットボールセンター（KFC）が運営している。

底地は、もともと農地だったが、都市公園整備のために嘉島町が取得し、土地の造成、擁壁の整備までを町の負担で行っている。

フィールドや建物の設計・施工は熊本県サッカー協会が自ら資金調達して実施し、完成後、フィールドと芝生広場及び駐車場・駐輪場と「House-W」を町に無償譲渡。

2022年12月からは熊本フットボールセンターが指定管理者制度により、指定管理期間5年・指定管理料0円で運営を担っている。

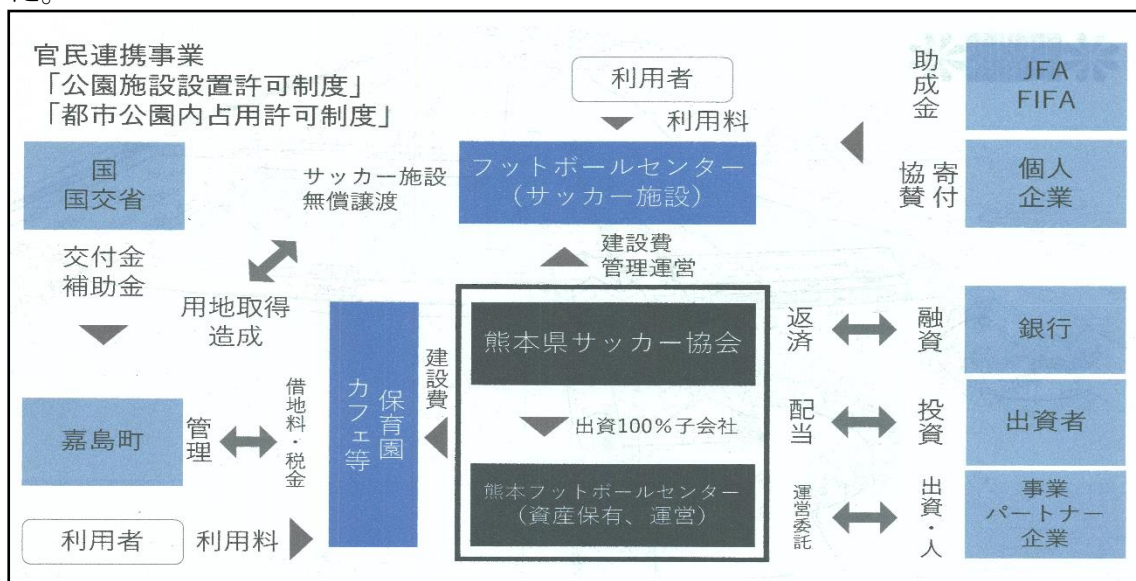
「House-N」は公園施設設置管理許可、「こすもす保育園」は都市公園内占用許可による自主事業となっている。

3. 施設の整備手法

計画当初、嘉島町と熊本県サッカー協会は事業期間や建ぺい率などが設置管理許可制度より有利になる Park-PFI 制度の活用を考えていたが、国と熊本県に調整を図った結果「Park-PFI の適用は難しい」と判断した。

結果として、設置管理許可制度で公園施設を、占用許可で保育園を整備する手法に落ち着いた。

保育所は、2017年の都市公園法改正によって都市公園の占用が認められるようになったが、敷地は市街化調整区域にあるため、占用物件を建設するには開発許可が必要であり、周辺集落との距離制限があるため、建物の位置を再検討した。



4. 資金調達・建設費

熊本県サッカー協会は当初、整備費を約6億1400万円と見積もっていたが、約7億円となった。

資金は熊本県サッカー協会の自己資金、日本サッカー協会（JFA）からの補助金12,280万円、国際サッカー連盟（FIFA）からの地震復興支援金6,700万円、企業主導型保育園整備の助成金7,700万円、寄附（目標額3,000万円）と銀行融資となっている。

さらに、予定整備費の約1割に相当する6,100万円は、プラスソーシャルインベストメント（京都市上京区）が提供する社会的投資プラットフォーム「en.try（エントライ）」を通じて募集。この応援ファンドは個人や法人からの小口出資を募る匿名組合契約ファンドで、事業開始後に毎年の売り上げに応じて分配金を支払うというものであり、さらに分配金に加え、出資額に応じて利用券や熊本の特産品などの特典も用意した。

資金調達・建設費	
資金	建設費
合計701,500千円	合計701,500千円
寄付 22,000千円	フィールド 広場等外構 325,300千円
応援ファンドA号・B号 61,000千円	N棟・W棟 216,300千円
銀行借入 280,000千円	こすもす保育園 117,000千円
協会自己資金 71,700千円	その他 42,900千円
JFA施設整備補助金 122,800千円	
FIFA熊本地震支援金 67,000千円	
企業主導型保育事業助成金 77,000千円	

嘉島町へ無償譲渡

大規模修繕に向けて積立のための収益施設

5. コンセプト

熊本県サッカー協会のマスタープランには、当初からサッカーフィールドや駐車場以外に保育園、カフェ、ランドリー、ワークプレイスの設置が想定されている。

日本サッカー協会、熊本県サッカー協会は『サッカーを通じて人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献』するという理念を掲げており、その実現には、サッカーだけの施設では果たせないと考えた。マスタープランを検討する際は建設委員だけでなく、キッズチームの保護者など、なるべく多様な人に加わってもらい、どんな機能が欲しいかを議論したという。カフェやランドリーはそのなか

ら出てきた意見であった。フィールドの利用は、どうしても土日祝日と平日夕方
に偏る。保育園のアイデアは、平日の日中に使ってもらえる施設は何か、と考
えたことから生まれ、広々としたフィールドや芝生広場を子どもたちのために活
用してもらえ、フットボールセンターと相性のいい施設だと考えた。

運営にあたっては、「持続可能であること」と「スポーツ文化の醸成」という
コンセプトを掲げており、保育園、カフェ等の収益施設を通じて“稼ぐ”機能
を持ち、長期に渡って持続可能な施設を目指している。

また、さまざまな世代がスポーツを媒介にして豊かな時間を過ごせる場に
し、熊本のスポーツ文化を醸成していきたいと考えており、立地する嘉島町をは
じめとする近隣地域とのつながりも重視している。施設利用者だけでなく、協
力事業者もできる限り地元企業や個人とパートナーシップを組むことで、地
域内の人やお金が循環する仕組みを作ることも目標としているという。



6. 考察

熊本県嘉島町を訪れるのは、今回で2度目、17年ぶりの訪問となった。前回
は、本市に誘致したダイヤモンドシティ・エアリ（現在は、イオンモール名取）
のオープンに先立ち地権者と共にダイヤモンドシティ・クレア（現イオンモール
熊本）の視察に訪れている。本市と嘉島町は、ダイヤモンドシティがあり、ビー
ル工場（本市はサッポロ、嘉島町はサントリー）があり、互いに政令指定都市の
隣、地方空港も所在・隣接しており、個人的な思いではあるが妙に身近に感じて
いた。

今回、嘉島町に訪問し勉強させていただきたいと思ったのは、全国の人口増加自治体ベスト10にランクインしている嘉島町の取り組みについての拝聴と、全国でも数少ない「地域スポーツ施設と保育園などの多機能型複合施設」を実現し、様々な世代の交流拠点の役割を担う「COSMOS」をこの目で拝見したかったためである。私的には期待以上のものであった。

人口増加率向上施策については、土地区画整理事業等による面整備を進めるとともに、雇用・就業マッチング事業、企業誘致対策事業、移住・定住促進事業、地域子育て支援拠点事業などの取り組みを推進されており、本市においても参考になる内容であった。

本市において、市民の健康増進・スポーツ環境の充実を考えたとき、スポーツ施設の設置・整備が必要と考える。今後のスポーツ施設整備を考える際は、今回視察した「COSMOS」は大いに参考とさせていただく事例であると思った。単に競技者が使用するグラウンドというだけでなく、近隣住民や他のスポーツも交えたスポーツ文化の発信拠点・交流拠点とし、さまざまな世代が豊かな時間を過ごせる場になるよう、地域内で人やお金が循環する仕組みを「まちとみんなで作ることをめざす」というコンセプトには感銘を受けた。

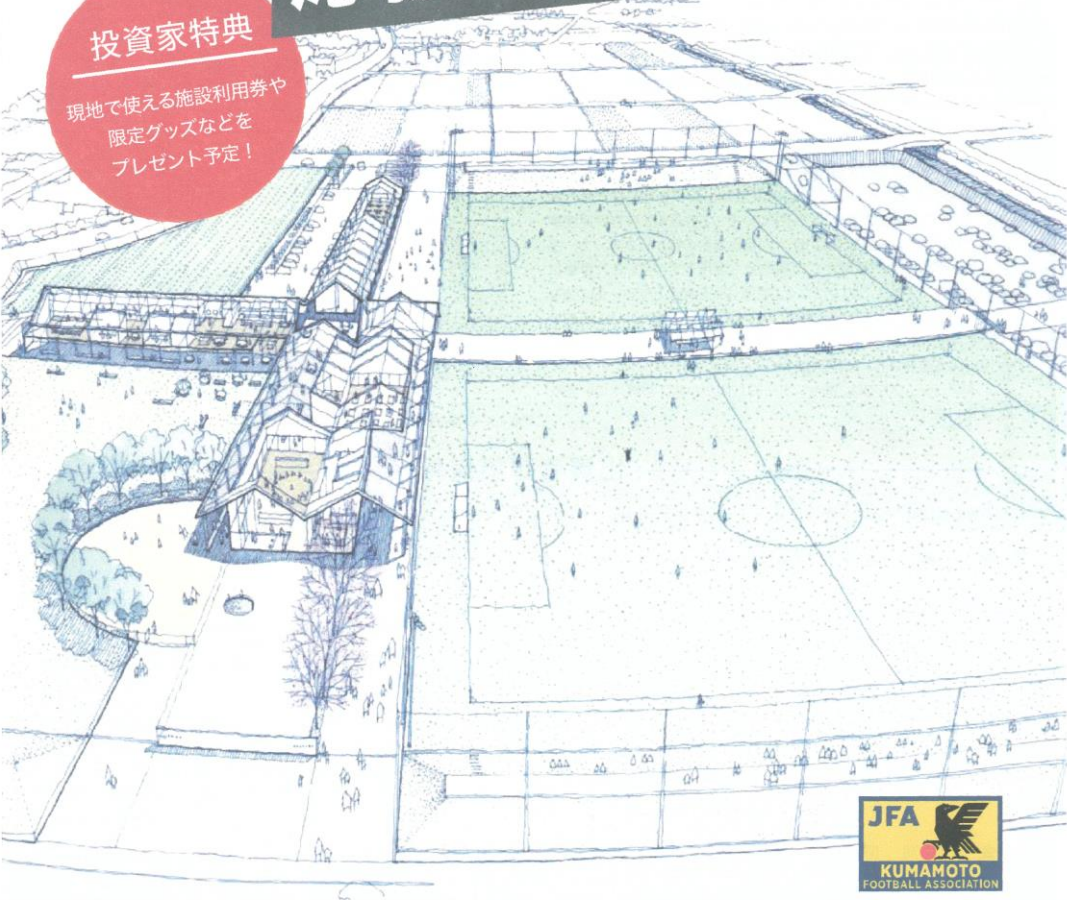
末筆になるが、今回の視察研修に際し、お忙しい中、私共のために時間を割いていただいた嘉島町議会・嘉島町役場の皆様、熊本フットボールセンターの松下氏に感謝申し上げます。



まちとみんなでつくる！熊本サッカーの新拠点

熊本フットボールセンター 応援ファンド

投資家特典
現地で使える施設利用券や
限定グッズなどを
プレゼント予定！



社会的投資ファンド・投資型クラウドファンディング

プロジェクトアセット出資者募集のご案内

出資を検討されている方は、下記のURLまたはQRコードからアクセスし事業の詳細をご確認ください。

ファンド説明会や投資家特典など、最新情報を掲載していきます！

<https://www.en-try.jp/feature/kumamoto-football/>



プロジェクトアセット「概要」 - 社会的投資ファンド -

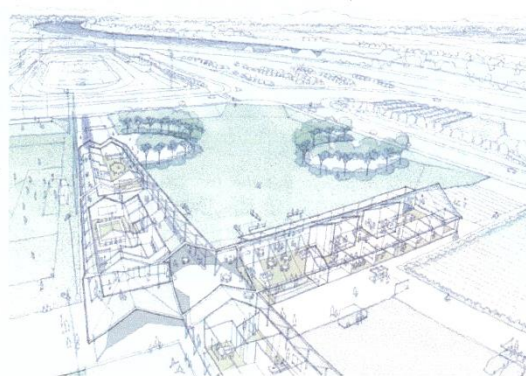
まちとみんなでつくる！熊本サッカーの新拠点

熊本フットボールセンター応援ファンド

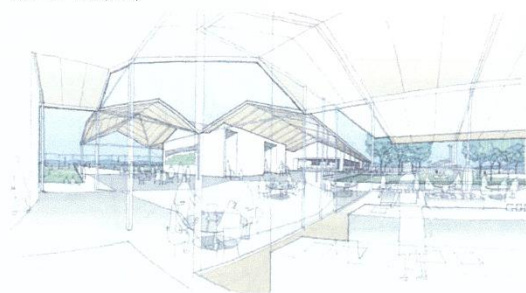
現在、一般社団法人熊本県サッカー協会(以下 KFA)にはキッズからシニア年代まで約500チーム・選手17,000人余が登録しています(2021年2月28日現在)。一方で県内のグラウンド数が少なく、慢性的な公式戦会場不足の状態にあります。2022年8月開設予定の「熊本県フットボールセンター(仮称)」は、そうした状況の解消に加え、県サッカー界の強化育成拠点として開設されます。ナイター照明付き人工芝サッカーフィールド2面のほか、更衣室・シャワーを備えたクラブハウス、400台収容可能な駐車場を完備。さらに芝生広場、保育園、カフェ、ランドリーなどその他の様々な施設を併設し、地域の活動交流拠点としての役割も担います。

同センターは、設置管理許可制度を適用した「嘉島町総合運動公園整備事業」として、KFAとKFA100%出資子会社の株式会社熊本フットボールセンター(以下 KFC)、そして嘉島町との官民連携事業で行います。施設整備はKFAが自己資金のほか日本サッカー協会や国際サッカー連盟からの補助金も活用予定です。これは単に行政事業で済ませるのではなく、地域住民を始めとする一般の方々にも、広く「自分たちの集う場所づくり」に参画してほしいという想いから今回のプロジェクトが立ち上がりました。完成後、一部は嘉島町に無償譲渡され、管理運営はKFCが行います。

本プロジェクトでは、同センター設立にかかる工事費用の一部を募集します。



完成イメージ図(外観)



完成イメージ図(施設内)

出資者募集情報

本団名組合契約名称	熊本フットボールセンター応援ファンド A 号	熊本フットボールセンター応援ファンド B 号
営 業 者	株式会社熊本フットボールセンター	株式会社熊本フットボールセンター
出資金募集最大総額	21,000,000円(700口) 申込上限口数 66口 1口金額 30,000円/口(出資金:30,000円 取扱手数料:0円) ※エンタライへの会員登録及び申込の代行入力を希望の方は、4口以上出資される場合に対応しております。その場合は、1件あたり別途3,300円(税込)の事務手数料をいただきます。	40,000,000円(400口) 申込上限口数 30口 1口金額 100,000円/口(出資金:100,000円 取扱手数料:0円) ※エンタライへの会員登録及び申込の代行入力を希望の方は、4口以上出資される場合に対応しております。その場合は、1件あたり別途3,300円(税込)の事務手数料をいただきます。
資 金 使 途	熊本県フットボールセンター(仮称)の工事費用の一部	熊本県フットボールセンター(仮称)の工事費用の一部
募 集 受 付 期 間	2021年5月19日～2022年3月31日 ※この期間中であっても、出資金額が出資金募集最大総額に達した場合は、そのときをもちまして出資の募集を終了します。	2021年5月19日～2022年3月31日 ※この期間中であっても、出資金額が出資金募集最大総額に達した場合は、そのときをもちまして出資の募集を終了します。
会 計 期 間	フットボールセンターのオープンした月の翌月1日から10年間	フットボールセンターのオープンした月の翌月1日から20年間
目 標 償 還 率	110.48%	126.12%
事業計画売上金額	10年間で845,817,300円の累計売上金額を目標とし、達成時には償還率110.48%(源泉徴収後償還率108.34%)になります。出資金額に対する損益分岐となる累計売上金額は521,998,509円になります。本事業計画は売上金額及び分配金額を保証するものではなく、元本が毀損するリスクがあります。	20年間で1,705,702,800円の累計売上金額を目標とし、達成時には償還率126.12%(源泉徴収後償還率120.78%)になります。出資金額に対する損益分岐となる累計売上金額は1,052,631,579円になります。本事業計画は売上金額及び分配金額を保証するものではなく、元本が毀損するリスクがあります。

🔑 投資家特典

ご出資いただいたみなさまには、以下の特典をお届けいたします。 ※イラストは特典内容のイメージです。

熊本フットボールセンター応援ファンドA号

① 1□のご出資 5,000円相当(税込・送料込)

フットボールセンターで使えるコーヒー券、ランドリー利用券

② 2□以上のご出資 11,000円相当(税込・送料込)

熊本県の特産品セット + ①の特典内容

③ 5□以上のご出資 28,000円相当(税込・送料込)
※以下(1)、(2)のいずれかひとつをご選択ください

(1) フットボールセンターオープン記念品セット + ②の特典内容
(2) フットボールセンター完成時に設置するオープン記念プレート
にお名前を掲載

④ 66□(申込上限口数)のご出資

オープン記念セレモニーのテープカット参加権
+ ③の(1) + ③の(2)の特典内容

熊本フットボールセンター応援ファンドB号

① 3□以上のご出資

(株)熊本フットボールセンターのWEBサイトにてお名前を掲載
+
フットボールセンター完成時に設置するオープン記念プレートに
お名前を掲載

② 30□(申込上限口数)のご出資

①の特典内容に加え、
(1) (一社)熊本県サッカー協会発行の会報誌に特集記事掲載
+
(2) フットボールセンター内でのプロモーション(年一回×20年)
※イベント開催時にブース等を設置いただけます。

\\ さらに、本プロジェクトにご出資いただいたみなさまを内覧会・オープニングイベントへご招待いたします！ //

2022年9月開設予定の熊本県フットボールセンター(仮称)は一般社団法人熊本県サッカー協会、株式会社熊本フットボールセンターが嘉島町と連携して行う官民連携事業です。
保育園やカフェなどを併設し、地域の活動交流拠点としての役割も担います。



嘉島町

施設完成後一部無償譲渡

施設の管理運営



投資家

個人・法人



分配金・投資家特典

取扱者

第二種金融商品
取引業者

PLUS SOCIAL
Investment

匿名組合出資金



営業者

株式会社
熊本フットボールセンター